

- 秋田県では、年々増加する再造林・下刈り等の森林施業を担う人材が不足しており、事業量に見合う人材確保が課題となっている。
- 今後、林業就業希望者の裾野を広げるため、職業としての林業の認知度が低い状況を改善する必要がある。
- このため、広く一般の方を対象に、機械化が進んでいる林業の実演会等を開催し、林業の魅力をPRした。

□ 事業内容

職業として林業の魅力を発信し、認知度向上を図るため、高性能林業機械の展示・実演会やチェーンソーによる伐木造材技術安全大会を開催し、一般の方を対象に幅広く林業の魅力をPRする。

- ①高性能林業機械の展示・実演会
- ②伐木造材技術安全大会の開催

【事業費】7,359千円（全額譲与税）

【実績】来場者 ① 1,000人、②100人

□ 取組の背景

- ・再造林の拡大に伴う下刈り等の保育作業が年々増加している。
- ・新規就業者は毎年140人前後を確保しているものの、現場からは労働力が不足しているとの声が多い。
- ・林業は、普段目にする機会が少ないため、職業としての認知度が低い。
- ・就業希望者を拡大するため、林業の魅力を広く発信する必要がある。



（高性能林業機械の実演）



（丸太切り体験）



（伐木造材技術安全大会）

□ 工夫・留意した点

- ・女性や若者の就業を促進するため、高性能林業機械の実演オペレーターに女性の林業技術者を採用。
- ・一般県民に向けてイベントを広く周知するため、小中学校へのチラシ・ポスターの配布やSNS等による情報発信を実施。



□ 取組の効果

- ・一般来場者の林業に対する認知度向上
- ・機械化された素材生産やチェーンソーの造材技術の実演により、林業のイメージアップ促進

◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：161,364千円	②私有林人工林面積（※1）：176,572ha
③人口（※2）：959,502人	④林業就業者数（※2）：2,235人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2年国勢調査」より